

令和3年度

学校自己評価表(報告)

学校運営計画

<b>学校運営方針</b>	豊かな人間性をめざして高い知性と確かな学力を養い、進路目標の実現を図るとともに、自主性と責任感を養い、基本的な生活習慣を確立させることにより、明るく爽やかな生徒を育成する。
---------------	--

**教育目標**

- 1 学校教育に関する法規の定めるところに従い、国際的視野に立ち、社会の変化に主体的に対応できる能力と態度を育成する。
- 2 心身の調和のとれた成長・発展を目指し、豊かな心でたくましく生きていくことのできる人間を育成する。

**指導方針**

- 1 自主性の確立
  - 自分の考えをしっかりとつ習慣を身につける。
  - ア 客観的、総合的に判断して、知性ある正しい行動ができるような習慣を養う。
  - イ 高い価値を求める心情を育成する。
  - ウ 自分で自分を律することができる強い意志をもつ。
- 2 責任観念の養成
  - 自分の言動に責任をもつ生活態度を養う。
  - ア 困難に耐え、自分の仕事を積極的に全うする気力をもつ。
  - イ 働くことをいとわず、誰からも信頼されるよう心がける。
  - ウ 規範意識を高め、明るい社会の建設に励みあう連帯感を養う。
- 3 協力精神の育成
  - 相手の立場を考えて行動する心構えを育てる。
  - ア 相手を敬い、理解し得るような社会性を養う。
  - イ すすんで社会に奉仕する謙虚な心をもつ。
  - ウ 正しいエチケットを身につける。

昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
<p><b>【成果】</b> 生徒、保護者、職員等へのアンケートを実施し、学校運営の改善につなげた。また、生徒の規範や安全・人権に対する意識を高める取り組みを行い成果を上げた。教育相談体制についても、より一層の充実を図った。</p> <p><b>【課題】</b> アンケート結果や意見を踏まえ、一層の教育活動の充実に取り組む。進路希望実現に向け、生徒の学力を向上や特色ある教育活動を一層推進し、生徒自身が粘り強く取り組む意識を学校全体で醸成する。また、心身ともに健康な生活を送ることができるよう、さらなる教育相談体制の充実を図るとともに、学校全体で支援体制も構築する。</p>	生活習慣と学習習慣の確立を図り、バランスのとれた高校生活を過ごさせる。	教職員の共通理解の推進、遅刻の防止、適正な身なり、教育相談の充実、自己管理能力の醸成
	校内外の研修会への参加や自己研鑽により、教職員の指導力の向上を図る。	授業公開、校内研修会の充実、研修に対する教職員の意識の高揚
	生徒の実態に即した授業内容の改善とICT機器の積極的活用によって学習意欲を育むとともに、生徒の進路実現を可能にする確かな学力を養成する。	授業評価の実施、授業改善と課題の精選、家庭学習時間確保、生徒への個別学習指導
	総合的な探究の時間等を通じて、知識及び技能、思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力・人間性等の資質・能力を育成することで、自己と不可分な課題を発見し解決していく力を養う。	土曜活用・模擬試験・講演会・体験入学・進路情報等の充実・大学入学共通テスト受験奨励、探究学習発表会・食物科の試食会・音楽科の演奏会等の充実、活発な部活動

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
学校経営	安全・安心な学校づくり	生活意識調査で、学校生活に「満足」「どちらかといえば満足」が80±5%。	生活意識調査において、高校生活に「満足している」「どちらかといえば満足している」との回答は、全体の76.9%であった。	B
	進路希望の達成	3学年当初の進路希望に対する達成率が80±5%。	年度当初の進路希望に対する達成率は、7割を上回る結果であった。	B
	組織的な学校運営	職員アンケートで、「組織的な学校運営がなされている」について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が80±5%。	職員アンケートの結果は、93%であった。運営委員会を中心に、組織的な学校運営がなされた。	B

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価	
1 学年	家庭学習習慣の定着	家庭学習時間を毎日確保している生徒が80%以上。	生徒アンケートから「あてはまる」が16.4%、「ややあてはまる」が43.2%	C	B
	基礎学力の定着	スタディーサポート・進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上。	1月進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒：普通科68.9%、学究90.5%、食物21.1%、音楽11.5%で学年全体：63.7%	B	
	学校行事、部活動への積極的な参加	年度末のアンケートで「充実していた」「どちらかと言えば充実していた」の回答が80%以上。	「充実していた」40.7%、「どちらかと言えば充実していた」50.6%で合計91.3%（今年度は「部活動への参加」についての評価のみ）	A	
2 学年	家庭学習習慣の定着	家庭学習時間を毎日確保している生徒が80%以上。	生徒アンケートから「あてはまる」が15.0%、「ややあてはまる」が44.1%	C	C
	基礎学力の定着	11月進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上。	11月進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒：普通科42.3%、学究81.8%、食物5.0%、音楽21.4%で学年全体：45.2%	C	
	学校行事、部活動への積極的な参加	年度末のアンケートで「充実していた」「どちらかと言えば充実していた」の回答が80%以上。	「充実していた」50.0%、「どちらかと言えば充実していた」28.9%で合計78.9%で概ね達成（今年度は「部活動への参加」についての評価のみ）	B	
3 学年	学力の伸長	①模試のGTZのB2以上の割合で、2年2月進研マーク模試から3年11月ベネ駿模試にかけて10%アップを目指す。 ②生徒のアンケートで「学力が伸びたと実感できた」とする割合を60%以上とする。	①5教科総合GTZがB2以上の割合は2年2月進研マークが24.7%→3年11月模試が25% ②生徒のアンケートから「よくあてはまる」が30%、「まあまああてはまる」が50%で学年全体80%	B	B
	適切な進路情報の提供と進路希望達成のサポート	①生徒へのアンケートで「進路情報が適切に提供されている」と感じる割合が80%以上。 ②生徒のアンケートで「先生方は質問や相談によく応じ、サポートしてくれる」の割合が80%以上。	①生徒のアンケートから「よくあてはまる」が21%、「まあまああてはまる」が52%で学年全体73% ②生徒のアンケートから「よくあてはまる」が39%、「まあまああてはまる」が54%で学年全体93%	B	
	進路希望の達成	①大学進学における合格者を国公立60人以上、難関大3人以上とする。 ②就職希望者の100%の内定者を実現する。 ③大学入学共通テスト出願率85%	①国公立大学合格者41人（3月10日現在）、難関大0人。 ②就職希望者内定率100%。 ③大学入学共通テスト出願率87%	B	
学究コース	学力養成・進路実現	3学年：進研模試でGTZ B1以上が30人、国公立大学合格者が30±5人。	11月進研模試GTZ B1以上5-8文12人、5-7理11人の合計23人 国公立大学合格者 24人（3月10日現在）	B	B
		2学年：11月進研模試で英数国3教科偏差値50以上が50%、3教科学力A3以上が30%。	3教科偏差値50以上：50% 3教科学力A3以上：14%		
		1学年：スタディーサポート・進研模試の3教科学力A3以上が20%。	1月進研模試3教科で学力A3以上が16%		
	家庭学習の定着	3学年：週30時間以上の家庭学習を行う生徒が60%。	12月の調査で60.3%	B	
2学年：週23時間（平日3時間、休日4時間）以上の家庭学習を行う生徒が80%。	学年末考査前の調査で73%				
1学年：週23時間（平日3時間、休日4時間）以上の家庭学習を行う生徒が60%。	2月の調査で週23時間以上が41%				

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価	
国語科	授業力の向上	生徒アンケートを実施、【授業が「わかる」「できる」】項目の「当てはまる」「やや当てはまる」が80%以上。年間通し全員が授業公開を行い、意見交換をする。	生徒アンケート【分かりやすく、内容がよく理解できる】に「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した生徒が9割以上であった。全員が授業公開を行い、学年内で意見交換を行った。	A	B
	学力の伸長 1 学年	1月進研記述模試「国語」で偏差値普通科50以上が60人以上。学究56以上が40人以上（昨年度51人、43人）。	1月進研記述模試「国語」で偏差値普通科50以上が81人、学究56以上が15人であった。	B	
	学力の伸長 2 学年	2月進研共通テスト模試「国語」で偏差値普通科50以上が80人以上。学究56以上が30人以上（昨年度87人、56人）。	2月進研共通テスト模試「国語」で偏差値普通科50以上が56人、学究56以上が17人であった。	C	
	学力の伸長 3 学年	大学入試共通テスト「国語」で、平均点以上の割合が「国語」受験者の35%以上。（昨年度31.1%）。学究平均点が全国平均点以上。（昨年度-7.4点）	大学入学共通テスト「国語」 本校受験者数261名 全国平均以上85名（32.6%） 学究平均点107.0点 全国平均点110.3点（-3.3点） 昨年度より上回ることができたが、若干目標値を下回った。	B	
地理 歴史 公民科	授業力の向上	よりよい授業実践を実現するため、年間を通して全員が授業公開を行うとともに、科会を通じて意見交換を行う。	全員が授業公開を行い、今後の授業実践に資する意見交換を科会等で行った。	B	B
	授業力の向上	生徒アンケートの【地歴公民の授業が「わかる」が実感できた】の項目の回答で、「当てはまる」「やや当てはまる」が合わせて80%以上。	1年生が98.7%、2年生が76.1%、3年生が95.2%、全学年平均90.0%	B	
	学力の伸長	大学入学共通テストの各科目の平均点が全国平均点-5点以内。	全国平均中間発表と比較して、公民科目はいずれも-5点以内（倫理-3.9、政経-3.5）を達成した。地歴科目はいずれも-5点以上（世史-18.6、日史-12.2、地理-14.7）であった。	B	
数学科	学力の伸長	3学年：大学入試共通テストの数学①で、自己採点が全国平均点以上の生徒が50人。 2学年：進研2月マーク模試の数学①で、偏差値50以上が80人以上。 1学年：進研1月記述模試の数学で、偏差値50以上が100人以上。	3学年：平均点以上 数学1A 24名 数学2B 10名 2学年：偏差値50以上 数学1A 65名 数学2B 49名 1学年：偏差値50以上 数学 108名	C	B
	授業力の向上	生徒アンケートの【数学の授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答で、「当てはまる」「やや当てはまる」が合わせて80%以上。	1学年：80% 2学年：85% 3学年：98% が当てはまるとやや当てはまるを合計した割合である。	A	
理科	授業力の向上	よりよい授業実践のため、年間を通して全員が授業公開を行う。	よりよい授業実践のため授業公開を行った。	B	B
	基礎学力の向上	授業に関する生徒アンケートを実施し、【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答が「当てはまる」「やや当てはまる」が80%以上。	授業に関する生徒アンケートを実施した結果、【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答が「当てはまる」「やや当てはまる」が3学年平均81.7%であった。	B	
	新学習指導要領への対応	主体的・対話的で深い学びの実現のために、情報収集や意見交換を行い、授業改善の取り組みを進める。	主体的・対話的で深い学びの実現のために、意見交換を行う等の授業改善の取り組みを進めた。	B	

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価	
保健 体育科	授業力の向上	よりよい授業実践を実現するため、年間を通して全員が授業公開を行うとともに、科会を通じて意見交換を行う。	コロナ感染対策に十分配慮しながら、おおむね達成できた。	B	A
	基礎体力の向上	体力テスト総合判定において、C判定以上を70%、B判定以上を30%とする（2.3年次は前年度との比較も行う）。	今年度の体力テスト総合判定においてC判定以上82.1%、B判定以上48.5%であり達成できた。（前年度比較C判定以上は若干下がったが、B判定以上は上回った）	A	
英語科	学力の伸長	3学年：11月ベネッセ駿台マーク模試で偏差値50以上が60人以上・英検準2級以上を4割以上が取得。CEFR-J A2.2レベル以上が40%以上。 2学年：11月進研模試で偏差値50以上が60人以上・英検準2級以上を4割が取得。 1学年：11月進研模試で偏差値50以上が60人以上・英検準2級以上を2割が取得。	3学年：11月ベネッセ駿台マーク模試で偏差値50以上がリーディング51名、リスニング67名・英検準2級以上45.9%、GTEC検定版のCEFR-J A2.2レベル以上は67.8%。 2学年：11月進研模試で偏差値50以上が84人・英検準2級以上を101名(30%)が取得。 1学年：11月進研模試で偏差値50以上が83名。CEFR-J A2.2レベル(英検準2級相当)が73名、学年の2割以上となった。	B	B
	授業力の向上	生徒アンケートの【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答で、「当てはまる」「やや当てはまる」が合わせて8割以上。	生徒アンケート【分かりやすく、内容がよく理解できる】に「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した生徒が9割以上であった。	A	
食物科 ・家庭	専門調理技術を習得し、進路希望を実現する。	食物調理技術検定学習を通じて「技術向上に主体的に取り組めた」生徒が80%。 専門教育を生かした進路の実現が75%。	食物調理技術検定学習を通じて「技術向上に主体的に取り組めた」生徒が100%。専門教育を生かした進路の実現が76.9%であった。	A	A
	食の総合的実践への取り組み	校内試食会において、自分の役割に対し「積極的に責任を果たした」とする生徒の5段階評価アンケートの結果が平均4.2。	校内試食会において、自分の役割に対し「積極的に責任を果たした」とする生徒の5段階評価アンケートの結果が平均4.7であった。	A	
	生活技術の向上	家庭基礎・家庭総合において、生徒アンケートで「家庭科の授業をとおして生活技術の向上がみられた」と答える生徒が75%。	家庭基礎・家庭総合において、生徒アンケートで「家庭科の授業をとおして生活技術の向上がみられた」と答える生徒が95%であった。	A	
音楽科 ・芸術	豊かな音楽観の育成	特別講座や各種演奏会をとおして、視野を広げ、自分の音楽観を深めることができた生徒が80%	生徒アンケートで、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答えた生徒が合わせて100%であった。	A	A
	アンサンブル活動をとおして協働する力の向上	重唱重奏や合唱合奏の科目において、他のパートと協働し、共に音楽を創り上げることができた生徒が80%	生徒アンケートで、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答えた生徒が合わせて100%であった。	A	
	表現力の向上	音楽・美術・書道の科目の各選択において、生徒アンケートで「芸術の授業をとおして自己表現ができた」と答える生徒が75%	生徒アンケートで、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答えた生徒が合わせて92%であった。	A	
情報科	情報活用技術の向上	社会と情報において、生徒アンケートで「情報の授業をとおして情報活用技術の向上がみられた」と答える生徒が85%。	よくあてはまる(56.3%)とややあてはまる(35.7%)を合わせて92%であった。	A	A
	情報モラルの向上	社会と情報において、生徒アンケートで「情報の授業をとおして情報モラルの理解が深まった」と答える生徒が85%。	よくあてはまる(60.6%)とややあてはまる(31.4%)を合わせて92%であった。	A	

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
学習指導 (教務)	授業力の向上	よりより授業実践のため、授業公開月間を年2回設定し、年間をと おして全員が授業公開を行う。 また、教科会を実施し、各教科で 授業改善のための意見交換を行 う。	・ほぼ全員の教諭・常勤講師が授 業公開を行った。また、担当外の 教科科目の授業の見学も増加し た。 ・教科会の実施を教務部として設 定することができなかった。	B
	基礎学力の向上	生徒に学力の伸長を感じさせられ るような授業改善を図る。 全員が授業に関する生徒アンケ ートを実施する。(よくあてはまる +ややあてはまるの割合) 『興味・関心、学ぶ意欲が高ま る』(80%以上)『説明が分かりや すく、内容がよく理解できる』 (80%以上)『授業の進め方に工夫 がされていると感じる』(80%以 上)『予習・復習などをしっかり行 い、理解が深まるように努めてい る』(70%以上)『自分の学力が 伸びていると実感出来ている』 (70%以上)	・生徒アンケートの結果(よくあ てはまる+ややあてはまるの割合 ▼は目標を下回った) 『興味・関心、学ぶ意欲が高ま る』(88.8%)『説明が分かりやす く、内容がよく理解できる』 (90.4%)『授業の進め方に工夫がさ れていると感じる』(89.6%)『予 習・復習などをしっかり行い、理 解が深まるように努めている』 (67.9%▼)『自分の学力が伸びてい ると実感出来ている』(74.1%) ・生徒の授業への満足度は高い が、生徒に学力の伸長を感じさせ られるような授業改善が必要であ る。教務部としてどのような働き かけが可能か検討する。	B B
生徒指導	校則に基づき、服装・頭 髪等の指導を行う	職員の共通理解のもとに頭髪服装 検査を行い、各回の校則違反者を 各学年6人以下とする。違反者の 頭髪服装を修正させる。	頭髪服装検査を各学期始業式 及び期末考査最終日に行っ た。違反者は継続的に指導 し、修正させた。	A
	交通安全指導を充実させ る	交通安全について継続的に指導 し、昨年度から交通事故件数を減 らす。「チュウオウの品格」を定 期的に発出し、校内・校外の生活 について注意を促す。	交通事故は昨年度から減少 し、5件となった。交通安全に ついては各学期末の保護者宛 文書で注意喚起を行った。	B
	安心・安全な環境で共感 的な人間関係を育む	スマートフォン等の利用に関して 継続的かつ段階的に指導する。ま たいじめアンケート等を活用し、 人間関係トラブルを未然に防ぎ、 トラブルが起こった場合は迅速に 委員会を開催し解決に努める。	校地内でのスマートフォン利用に ついては段階的指導を行い、審議 対象となった生徒はいなかった。 生徒からの訴え等で聴き取りを行 い、いじめ対応委員会が迅速に開 催され、見守りや声かけ等が行わ れた。	A
進路指導	進路に関する有効な情報 提供	学年集会時での講話や学習環境整 備の内容及び配布物・刊行物の活 用等について「有効」、「ある程 度有効」とする教員・生徒・保護 者が80%	保護者は80%以上、1年生 61%、2年生は55%、3年生 は72%、生徒全体で63%で あった。	B
	進路目標の達成	・1、2年：11月進研模試の結果で 国数英の平均学習到達ゾーンのラ ンクがB3以上の生徒が50%以上 ・3年：共通テスト出願率85%以 上、国公立大学合格60名、難関大 合格3名、就職希望達成100%	進研模試B3以上は1年が57%、2 年が45%であった。 大学入学共通テスト出願率87% 国公立大学合格者は41人(3月 10日現在)、難関大0人。 就職希望者内定率100%	B B
保健 環境	学習環境の整備を積極的 に推進する態度の育成	生徒アンケートで「普段の清掃は まじめに取り組んだ」の回答が 80%以上。	「普段の清掃はまじめに取り組ん だ」の回答は「よくあてはまる」 「まあまああてはまる」を合わせ て99%であった。	A
	心身の健康問題の早期発 見・対応による重症化防 止	生徒アンケートで「先生方は悩み を十分聴いてくれた」「どちらか といえば聴いてくれた」の回答が 80%以上。 日常の相談活動、関係職員との連 携により保健室頻回来室者(年10 回以上)を50人以下。	「先生方は悩みを十分聴いてくれ た」「どちらかといえば聴いてく れた」の回答は合わせて90%であ った。 日常の相談活動を関係職員と連携 して取り組んだが、保健室頻回来 室者(年10回以上)は75人であ り、50人を上回った。	B B

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
生徒会指導	学校行事で自分の役割を果たして活動する。	行事ごとに、生徒へのアンケートを実施し、どのような役割を果たし、どのような活動をしたかを具体的にあげてもらうとともに、「貢献度（自己満足度）」が90%以上。	生徒たちは自分たちの役割をよく考えて行動していた。アンケートについても生徒の満足度はどの行事も90%以上だった。	A
	学校行事が充実している。	行事ごとに、生徒へのアンケートを実施し、「充実している」が90%以上。	変則的ではあるが、中央祭、秋桜祭を行うことができ、アンケートについても生徒の充実度はいずれも90%以上だった。	A
	生徒会執行部員のリーダー性の育成。	年度末に生徒会執行部へアンケートを実施し、「全校生徒から理解と協力を得られたと感じる」が80%以上。	執行部にアンケートをとった結果、「全校生徒から理解と協力を得られたと感じる」が60%であった。運営のやり方について、今後更なる工夫が必要である。	B
図書視聴覚情報	知的好奇心を高め読書活動の充実につなげるための情報提供	生徒及び職員アンケートで「図書館や図書の情報が随時発信され、高校生活や読書活動に役立った」「どちらかと言えば役立った」の回答が80%。	生徒アンケートの結果は58%、職員アンケートの結果は100.0%であった。	B
	視聴覚機器・機材の維持、管理とともに操作手順の習得に努め、効果的な活用を図る	職員アンケートで「時間・場所等、適材適所に応じて、情報関連機器や視聴覚機器機材の運用がなされているか」について「そう思う・どちらかと言うとそう思う」が90%。	アンケート結果は100.0%であった。オンライン授業用の備品を数多くそろえた。しかしオンラインへの対応はまだまだやるべきことは多い。	A
	情報関連機器の維持、管理とともに操作法などをサポートする。また、日常の教育活動を積極的に情報発信する。			
総務	PTA活動の活性化及びPTA総会等の参加率向上	保護者の25%以上がPTA関連行事に参加。	各種行事が中止になったが、保護者アンケート「PTA総会の資料を読み、PTA活動を理解した」の質問に、「よくあてはまる」30%、「まあまああてはまる」に62%の回答を得た。	A
	PTA役員による中央グッズの企画、販売	学校への関心をより多くの人に持ってもらうことを目的に、中央グッズの企画と保護者への周知を積極的に行い、昨年度より多くの人に購入していただく。	2年連続で行事での販売ができなかったため、日時を設定して校内販売を行った。ホームページと紙面にて宣伝をしたことで、保護者に広く知っていただく機会になった。	B
人権教育同和教育男女平等教育推進	人権教育、同和教育、男女平等教育についての共通理解を深める	各種研修会等に参加し、研修内容を教職員に報告、周知することなどにより、人権教育、同和教育、男女平等教育についての全職員の共通理解を深める。職員アンケートを実施し「研修会報告によって理解が深まった」との回答が85±5%。	「越佐にんげん学校」や「現地研修会」を中心とした各種研修会に参加し、人権教育授業や教育活動の様々な場面に活かすことができた。研修内容を報告書にまとめ、職員への周知を行った。	B
	人権教育、同和教育、男女平等教育に対する意識向上をはかる	人権教育、同和教育、男女平等教育に対する啓発を目指し、校内で全校生徒及び教職員対象の講演会を実施し、全体的な意識の向上を目指す。講演会后、生徒及び教職員にアンケートを実施する。生徒アンケートにおける「講演の内容が理解できた」との回答が85±5%。職員アンケートにおける「講演会によって理解が深まった」との回答が85±5%。	講演会後のアンケートでは、生徒の99%、職員と保護者の100%から理解ができたとの回答を得ることができた。自由記述でも新たな知識が得られた、人権の大切さに改めて気づかされたなど、内容が十分伝わったことがうかがい知れた。次年度については、人権教育授業後のまとめに力を入れていくと、さらに充実した人権学習になると感じられた。	A

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
特別支援教育推進	生徒への支援、教員間の情報交換と共通理解	スクールカウンセラー等との連携や実態把握リストの作成により、悩みを抱える生徒の情報や対応を職員で共有し、「生徒の対応に役立てることができた」「どちらかといえばできた」とする職員の割合が75%。	「生徒の対応に役立てることができた」「どちらかといえばできた」合わせると100%であった。	A
	個別の指導計画の作成と個別指導	支援が必要な生徒に対して、個別の指導計画を作成し、「計画的・組織的に指導を行うことができた」「どちらかといえばできた」とする割合が70%。	「計画的・組織的に指導を行うことができた」「どちらかといえばできた」合わせて92.3%であった。	A
成果と課題	<p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点に基づき、年2回の授業公開月間をとおして教科等横断的な視点にも立った資質・能力の育成を図る一助となった。</p> <p>生徒の規範や安全・生命・人権に対する意識を高める職員研修を行い成果を上げた。また、いじめ問題に対して組織的に取り組むことの重要性を再度確認した。今後も組織的な対応について、全職員の共通認識を一層深めていくことが課題である。</p> <p>進路希望実現に向け、生徒の学力を向上や特色ある教育活動を一層推進し、生徒自身が粘り強く取り組む意識を学校全体で醸成することが、必要である。</p> <p>スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実にも引き続き取り組んでいる。今後も生徒が心身ともに健康な生活を送ることができるよう継続的に支援する。</p>			総合評価
				B